

## (5) 広域観光ルート現状

瀬戸内海を対象とした既存の広域観光ルートについて、東京を発着とするツアーに限定して調べてみると(平成 17 年 7 月出発分)、16 コースが商品化されている。

その特徴は次の通りである。

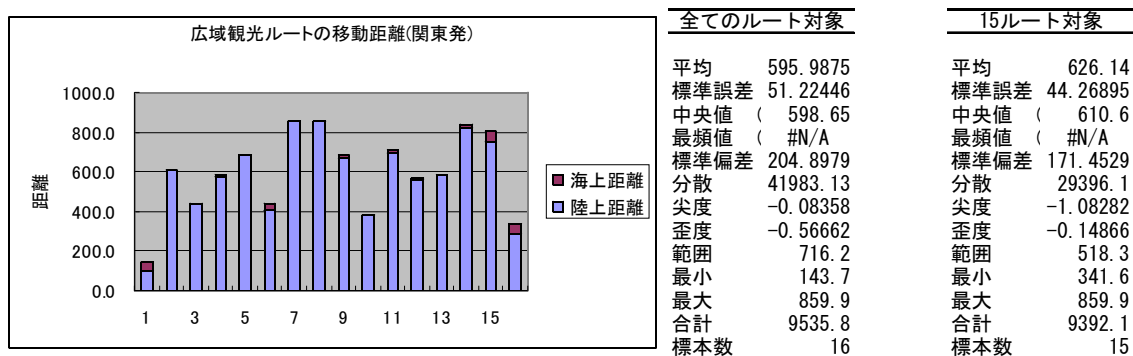
○ほとんどが 2 泊 3 日型

16 コース中、14 コースは 2 泊 3 日型(2 コースのみ 3 泊 4 日)となっている。

○長距離駆け足型ツアー

1 コースを除き、貸切バスで主要観光地を数多く訪れるというタイプのものであり、15 コースの平均移動距離は 626km、1 日平均約 210km を移動している。

(注) 例外的な 1 コースは小豆島に滞在するものであり、3 日間の総移動距離は 140km 程度。



○本四架橋の経由

16 コース中、10 コースが本四架橋を利用している。このうち 1 橋だけの利用は 2 コースであり、残りの 8 コースは 2 橋を利用している。瀬戸大橋としまなみ海道を利用するコースが多い。

本四架橋を利用しないコースは、中国側の観光地を移動するものが 5 コース、島(小豆島)を訪れるものが 1 コースとなっている。

○2 次交通の一部に船利用

既存の海上交通をコースに組み入れているものが 7 コースあり、海上交通がコースの魅力にもなっている。但し、海上移動距離は全コースの移動距離の 2%程度にすぎない。

(注) 小豆島に滞在するルートでは海上移動距離は 30.6%を占める。

既存の広域観光ツアールートの実態（東京を発着する瀬戸内海に關係するツアーを抜粋，2005年7月出発分，16コース，2次交通の一部に船利用が7コース）

（注）国道・高速道路の移動距離は「道路時刻表'04～'05」による。その他の道路の移動距離は「ゼンリン電子地図帳」により計測。  
船の移動距離は「フェリー・旅客船ガイド2005年秋季号」による。  
距離合計は着地からの距離の合計で、徒歩以外の全ての交通手段を含む。

①遊久の風  
日本のエーゲ海 小豆島の休日  
2泊3日  
50,000～101,200円  
（ANA）

スローツーリズム型

距離合計 143.7km 貸切バス 0km



※ 高松空港～高松港間は空港連絡バス  
小豆島内は定期観光バス  
ホテルはホテル送迎バスを使用  
船の移動距離は 44km

②旅ドキ（夏秋）  
ノスタルジック倉敷と湯の街道後・  
あしずり温泉黒潮紀行  
2泊3日  
68,400～106,800円  
（ANA）

距離合計 610.6km 貸切バス 608.8km



※ 2日目道後温泉から松山市中心部まで  
「坊っちゃん列車」を使用

⑨しまなみ四国大感謝祭  
2泊3日  
39,800～43,300円  
（阪急交通社）

距離合計 684.6km 貸切バス 666.6km



※ 船の移動距離 18km

⑩陽光あふれる瀬戸内紀行  
2泊3日  
39,800～51,800円  
（阪急交通社）

距離合計 384.9km 貸切バス 384.9km



③風情ある瀬戸内を訪ねて・・・  
陽光溢れる山陽、四国路周遊  
2泊3日  
44,800～50,800円  
（JTB）

距離合計 441km 貸切バス 441km



④風情ある瀬戸内を訪ねて・・・  
萩、津和野、安芸の宮島  
2泊3日  
50,000～55,000円  
（JTB）

距離合計 584km 貸切バス 580km



※ 船の移動距離 4km

⑪しまなみ四国周遊と  
四国最南端足摺岬3日間  
2泊3日  
39,800～59,800円  
（阪急交通社）

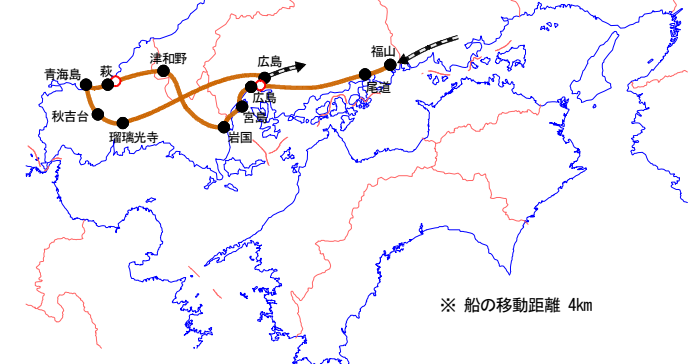
距離合計 710.6km 貸切バス 692.6km



※ 船の移動距離 18km

⑫萩・津和野・安芸の宮島と  
尾道・瀬戸内旅情  
2泊3日  
39,800～59,800円  
（阪急交通社）

距離合計 566.7km 貸切バス 562.7km



※ 船の移動距離 4km

⑤四国黒潮の味覚と名湯満喫  
足摺・道後・しまなみロマンティック海道  
2泊3日  
57,800～132,800円  
（JTB）

距離合計 683.5km 貸切バス 683.5km



⑥夏祭り  
宮島水中花火大会と  
徳島阿波踊りを楽しむ3日間  
2泊3日  
114,800～121,800円  
（JTB）

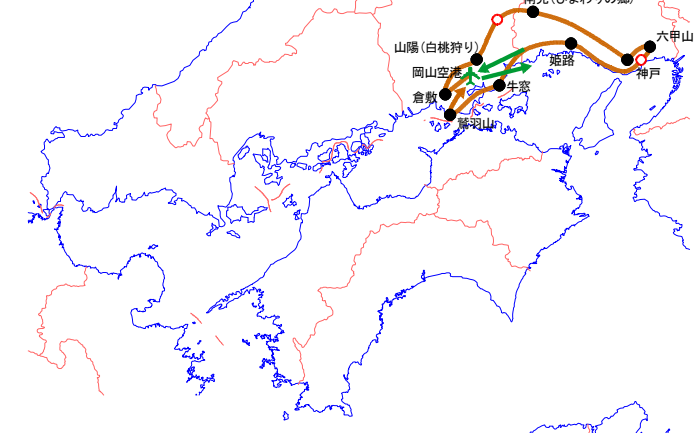
距離合計 442.2km 貸切バス 408.2km



※ 船の移動距離 34km

⑬瀬戸内夏物語3日間  
2泊3日  
49,800円  
（阪急交通社）

距離合計 586.7km 貸切バス 586.7km



⑭美しき瀬戸内しまなみ海道と  
きらめき四国大周遊4日間  
3泊4日  
49,800～56,300円  
（阪急交通社）

距離合計 837.5km 貸切バス 819.5km



※ 船の移動距離 18km

⑦最後の清流奥四万十川と  
四国カルストを訪ねる旅  
2泊3日  
59,800～73,800円  
（近畿日本ツーリスト）

距離合計 859.9km 貸切バス 859.9km



⑧明石海峡大橋・瀬戸大橋・  
奥四万十川と四国一周  
2泊3日  
53,800～107,800円  
（近畿日本ツーリスト）

距離合計 857.3km 貸切バス 857.3km



⑮しまなみ海道  
四万十川と瀬戸内クルーズ  
夫婦ふたり旅4日間  
3泊4日  
100,000円  
（阪急交通社）

距離合計 801km 貸切バス 755.4km



※ 船の移動距離 45.6km

⑯JRのぞみ号で行く瀬戸内満喫  
吉備路と瀬戸内海クルーズ3日間  
2泊3日  
（日本旅行）

距離合計 341.6km 貸切バス 287km



※ 船の移動距離 54.6km

## (6) 瀬戸内海における新たな観光の動向

### ア. 地域資源を活用した観光……（例）讃岐うどんブーム

既存観光地ではない従来からある地域資源が脚光を浴び、全国から集客をした例として「讃岐うどん」があげられる。辺鄙な場所への立地や個性的なサービス等がマスコミに取り上げられることで、全国的な話題性をもち、広域からの集客に繋がった例である。

### イ. 体験型修学旅行……（例）白石島、倉橋島等

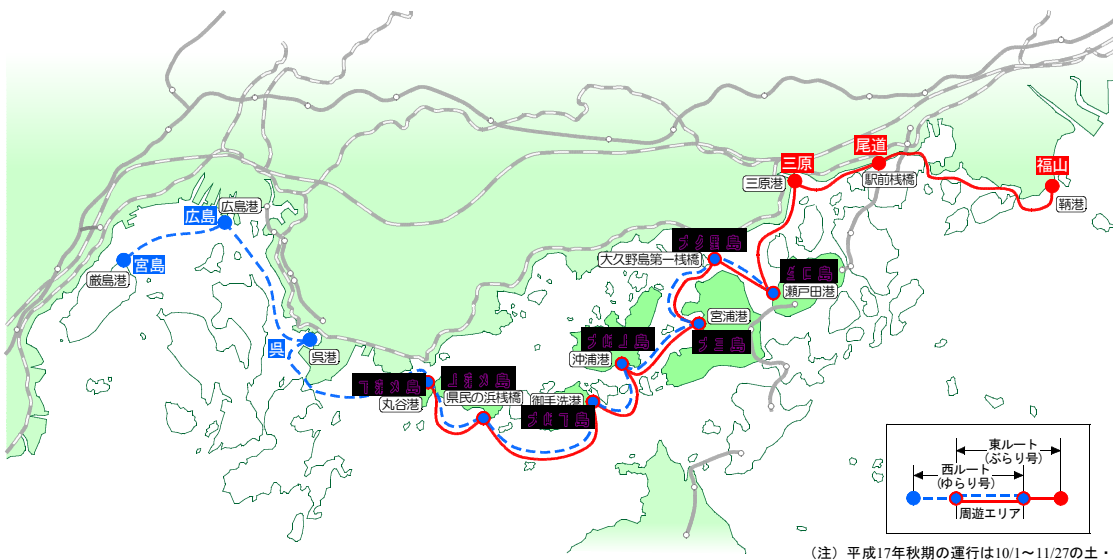
白石島（笠岡市）では、海洋体験を取り入れた修学旅行に人気があり、海との関わりが少ない内陸県の学校を中心として、平成14年度は15校（約2千人）を受け入れている。このような動きは倉橋島（呉市）でも見られ、広島湾ベイエリアとしての取組に発展しつつある。

修学旅行以外の体験型観光の例としては、さぬきうどん打ち体験（香川県琴平市）、オリーブ収穫体験（香川県小豆島）、藻塩づくり体験（広島県呉市）、たこつぼ漁（広島県呉市）などがあげられる。

### ウ. 新たな海上交通サービス……（例）せとうちおさんぽクルーズ

海上交通は、都市部と島嶼部を繋ぐ「南北航路」が多いが、「せとうちおさんぽクルーズ」は、島の観光地をつなぐ「東西航路」である。高速船で、一定時期の週末に運行されている。

「せとうちおさんぽクルーズ」のクルーズルート



## エ. 本四架橋の活用……（例）しまなみ海道スリーデーマーチ

しまなみ海道を歩いて渡るイベントは平成 12 年より開始された。当初は 1 日のみの開催だったが、平成 15 年からは 3 日間となり、全国からの参加者も 4 千人近くとなった。このほか、来島海峡大橋サイクリング大会等、体験型のイベントが実施されている。

## オ. 都市ウォーターフロント整備

港湾、水産業、工業機能等の活動が輻輳する我が国では、都市型のウォーターフロント集客空間の事例は多くない。こうした中で、瀬戸内海の都市ウォーターフロントにおいて、親水環境を活かした集客空間として整備する下記のような事例が生まれており、瀬戸内海観光の新たな可能性を示唆する動向と見ることができる。

近年整備された都市型ウォーターフロント集客空間

| 都市  | 整備内容                                     |
|-----|------------------------------------------|
| 尾道市 | 尾道水道に面したホテル、会議交流施設などを整備                  |
| 広島市 | 造船所跡地に大型シティリゾートホテルとマリーナを整備               |
|     | 大型マリーナとフェスティバルマーケットプレイスを整備               |
| 呉市  | 港に隣接して海事博物館（大和ミュージアム）と賑わい施設を整備           |
| 下関市 | 埋め立て地に大型水族館を整備、隣接してフィッシャーマンズワーフを整備       |
| 高松市 | 旅客船ふ頭の整備とあわせ、背後にシティホテルを整備し、その間をブルムナードで整備 |

## カ. 資源を広域的に繋いだ集客気運……（例）瀬戸内アートネットワーク構想

直島を中心に瀬戸内海の島嶼部において現代アートを展開し、世界にメッセージを発信しようというもので、ベネッセコーポレーション会長が提唱。国の都市再生プロジェクトにも選定された連携型アートイベントは 2010 年の開催を目標としている。

### (7) 瀬戸内海観光の特性と課題

- 瀬戸内海国立公園は、海と島を主体として指定されており、生活地域の中に点在する自然公園という特徴を持っている。従って、大スケールの自然公園というタイプではなく、海を舞台として、島嶼地域、都市地域、工業地域などがモザイク的に展開するという生活景がみられる。
- 各種の施設整備や交通体系の整備がなされているが、入り込み観光客数の増加に大きな影響をもたらしているのが3本の本四架橋の完成である。本四架橋の完成時には、観光客の伸びがみられたが、但し、リバウンドも大きい。
- 古代からの瀬戸内海航路により、港町や歴史的まちなみなどの資源が残されている。また、海・島・岬等の動的景観（シークエンス景）を楽しむことができる、航路が多数形成さあるが、これらが瀬戸内海の魅力として、十分に活用されているとは言い難い。
- 瀬戸内海における新たな観光の動向としては、地域資源の活用、体験型修学旅行、新たな交通サービス、都市ウォーターフロント整備、本四架橋の活用、広域集客の気運の高まりなどがあげられる。
- 瀬戸内海を対象とした既存の広域観光ルートは、2泊3日で主要観光地を観光バスでできるだけ効率的に廻るという長距離駆け足型ツアーとなっている。